

第3号

(平成17年11月1日)

“みんなで育てる みんなのまち”

アダプトだより

目次

- 特集1 ホタルが飛び交うまちの復活
- 特集2 戸石川と友だちになろう
- 会員の声をレポート
- こんなー工夫
- “ぎふまち育て隊” サポートーズ
- ニューエントリー
- 参加者募集
- アダプト・プログラム メンバーズ

上空から金華山と岐阜市街を望む

●インフォメーション●

岐阜市・柳津町合併イベント

「地域に根ざしたまちづくり交流会」

～まちを育てる人々～

日時 平成17年11月20日(日) 午前10時から
会場 岐阜市文化センター

午前の部 10:00～12:40

●学ぼう 広めよう “協働のまちづくり”

事例発表

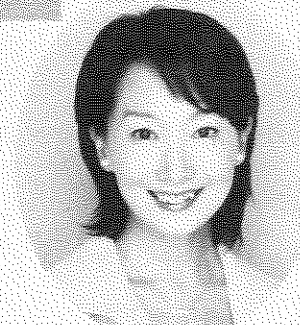
- ぎふNPO法人連絡協議会
- NPO法人まちの縁側育み隊
- NPO法人サイエンスものづくり塾 エジソンの会
- 京まちづくりの会
- 雨森(あめのもり)地区まちづくり部会

午後の部 13:30～16:00

●アグネス・チャン講演会

「みんな地球に生きるひと ～世界と地域 地域と子どもたち～」

●第1回わくわく・どきどき わがまち探検マップコンクール表彰式



アグネス・チャンさん

特集1

ホタルが飛び交うまちの復活～ まちづくりと創造型アダプト・プログラム

水と親しむ西郷まちづくり推進協議会

「ホタルまつり」の復活

かつて行っていた西郷小学校児童の参加によるホタルの養殖や、地域でのカワニナの放流などにより、再び飛翔しはじめたホタル。「水と親しむ西郷まちづくり推進協議会」の発足を契機として、10年ほど前まで行われていた板屋川の「ホタルまつり」の復活を図りました。多くのホタルの飛翔が見られるなか、今年は6月4日、5日に開催し多くの人でにぎわいました。協議会では、西郷地区内外から訪れる見物客のために、板屋川沿いの八王子橋横にテントを張り、交通整理やホタルの保護を呼びかけました。



▲板屋川沿いの八王子橋横の
ホタルまつりの本部テント



▲ゲンジボタルの夫婦

写真提供 東京都板橋区ホタル飼育施設
理学博士 阿部宣男氏

昔は、板屋川には、たくさんのホタルが見られましたが、昭和36年頃から、農薬の使用や生活廃水などにより板屋川の水質が悪化、ホタルが現れなくなりました。しかし、昭和40年代の半ばになり、10数匹のホタルが目撃されると、「何とかホタルの飛び交う姿が見たい」と自治会が中心となってホタルの幼虫の餌となるカワニナの放流を始めました。昭和61年には、青少年育成市民会議、体育振興会、交通安全協会など各種団体と連携し、「西郷の蛍 保護育成推進協議会」が結成されました。

昭和63年から平成5年にかけては、「ホタルまつり」を開催。板屋川沿いの八王子神社あたりに露店も

出て、多くの見物客でにぎわうようになりました。平成元年4月には、当時の環境庁から、「岐阜市西郷板屋川ホタルの里」として、「ふるさといきものの里」の認定を受けました。これは、小動物の保全を対象としたもので、地域でのゲンジボタルの保全活動が認められたものです。ところが何故か、再びホタルは、ほとんど姿を現さなくなったのです。そこで、平成7年からは、地域と西郷小学校が連携して、ホタルの幼虫の養殖に取り組み始め、3年ほど続けられました。その努力が実ったのでしょうか、昨年(平成16年)は、多くのホタルが出現!そして今年6月、水をテーマにまちづくりを進める「水と親しむ西郷まちづくり推進協議会」により、「ホタルまつり」復活に至ったのです。

「西郷ふれあいさんぽみち」での アダプト・プログラム



▲西郷ふれあいさんぽみち

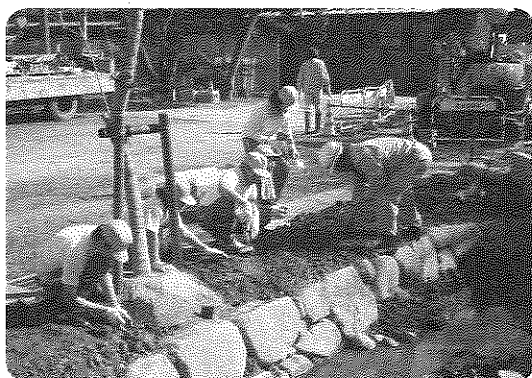
今年3月に完成した西郷小学校横の排水路改修により、新たに整備された親水空間「西郷ふれあいさんぽみち」。この管理をアダプト・プログラムの制度を用いて、清掃活動、水の流量調整などを、地域と西郷小学校が協働して行います。ここでは、ホタルの幼虫の餌となるカワニナを養殖する試みも行っています。

同地区は、国の田園環境保全整備事業の認定を受け、西郷地区の整備に関する提言書をまとめるなど水をテーマにまちづくりが進められています。「西郷ふれあいさんぽみち」は、この事業の一環。

「水と親しむ西郷まちづくり推進協議会」では、この取組みに企画段階から参画しました。階段を作るための杭打ちなど土木工事や植樹なども、PTAをはじめ協議会のメンバーが行いました。また、西郷小学校の児童は、花などを植えました。

協議会のメンバーからは、「西郷小学校の敷地に隣接し、管理面で問題があると思うが、地域への積極的な開放をしてほしい。これから西郷小学校へ入学する幼児、その親に、将来、通う学校に親しんでほしい」。

「子どもを育てるには、学校、家庭、そして地域の力が必要です。地域と学校が親しくなる、あいさが飛び交うなどのよいきっかけになるのでは」との声が聞かれます。



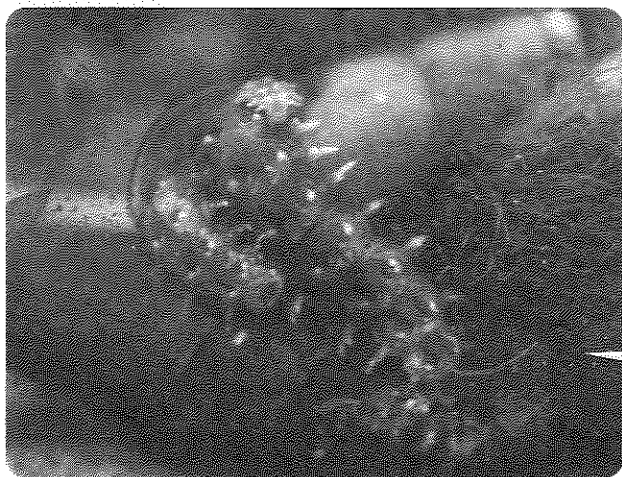
▲花を植える作業をする児童たち

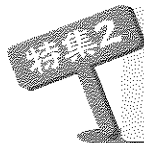
公共空間をわが子のようにかわいがり、面倒をみるアダプト・プログラム（清掃・維持管理）の仕組みが、ホタルの飛び交うふるさとづくりと、コミュニケーションを大切に育む西郷地区のまちづくりに、取り入れられています。

（担当 農地整備室）

▲カワニナを捕食する幼虫

写真提供 東京都板橋区ホタル飼育施設
理学博士 阿部宣男氏





戸石川と友だちになろう ～創造型アダプト・プログラム

戸石川水辺の楽校(がっこう)推進協議会



▲魚捕りをする常盤小学校の児童
平成17年8月27日(土)

岐阜市北部の常磐地区を流れる戸石川で、川遊びイベント「戸石川と友だちになろう～戸石川の川遊び」が開催され、常磐小児童ほか70名の参加がありました。参加した子どもらは、地域の“魚つかみ名人”に魚の捕り方を教わった後、戸石川に入り、網で魚を捕りました。捕った魚は水槽に移され、有識者による“戸石川に生息する魚”の説明や、魚の観察、写生を行いました。また、地域の住民に作り方を教わった笹舟流しも。子どもらは、「川に入り魚を捕ったことなど楽しかった。」と感想を述べ、夏休みの1日を過しました。

最後に再び川に入り、全員で戸石川の清掃をし、空

き缶やごみなどを拾いました。

「戸石川水辺の楽校推進協議会」の活動は、戸石川の改修による河川整備について、その企画や管理方法にいたるまで、地域と行政とが協働で進める「創造型」のアダプト・プログラム(美化を中心とした住民による公共空間の維持管理の仕組み)にあたります。

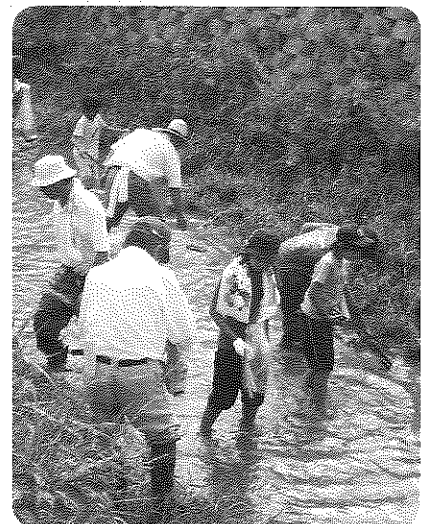
戸石川水辺の楽校(がっこう)推進協議会とは?

戸石川の河川改修事業に伴い、治水面や利水面に加えて、身近な河川を活用し、子どもたちにとって、自然とのふれあいや体験の場、集団活動の場となる様な整備を進める話が持ち上がりました。平成14年度に基本的な構想ができあがってから、自治会や子ども会、PTAなどの各種団体、常磐小学校などで戸石川水辺の楽校推進協議会を組織。協議会を毎年3回ほど開催しています。

「楽しい」という字を用いた「楽校(がっこう)」という名前には、戸石川を、楽しみながら「学習」ができる場所にしよう!という願いが込められています。地域のみんなが協力して、子どもたちが川で遊んでいけるような仕組みをつくる。自然の状態をできるだけ保全、瀬や淵、せせらぎなどの自然環境をつくりだすとともに、子どもたちが自然と出会える安全な水辺として整備する。このプロジェクトを息ながく継続させ、親子が自由に楽しめ触れ合う場であり、川での遊びが心に残る古里づくりをしていきます。

平成16年度には、水辺の楽校ゾーンの設計が完了し、今年度、整備に着手、来年度に整備が完了します。この整備が完了した後は、アダプト・プログラムにより、地域でつくる「戸石川水辺の楽校推進協議会」が、清掃を中心に維持管理していきます。

(担当 河川室)



▲アダプト! 戸石川の清掃

会員の声を レポート

今回は、「金華山を美しくする会」事務局の
井戸博司さんにお話を伺いました。



▲清掃活動を終えての記念撮影

「金華山を美しくする会」は、年3回の活動を行い、
発足以来の14年間に40回を超える活動を行っています。
ドライブウェイは綺麗ですが、手摺外の斜面にごみが投
げ捨てられています。特に展望のきくヘアピンカーブ付
近の崖下が大変汚れています。活動日には、毎回、30人
から40人の親子連れなどの参加者があり、6拠点にし
ばり清掃を行います。最初の活動では、タイヤ25本、
崖にごみが溜まりロープで下って引き揚げもしました。
ごみの数は、ゲートが設置され夜間の車の乗り入れが無

くなってからは、減ってきましたが、活動後には、20~30のごみ袋が収集されます。

また、清掃活動後は、すぐに解散していましたが、会員どうしや参加者のふれあいを考え、金華山の
植物、野鳥、昆虫、動物、歴史、山麓の町並みなど専門家の話しを聞くミニイベントを企画するよう
になりました。

まちづくりで大切なことは、「住んでいるまちに誇りがもてること。」「魅力に気づく。」ことだ
と思います。金華山は岐阜市の貴重な財産。多様な価値があります。それを学びながら清掃活動の励みに
して行きたい。そして楽しみながら活動を継続していきたいと心がけています。

●こんなひと工夫

活動報告書

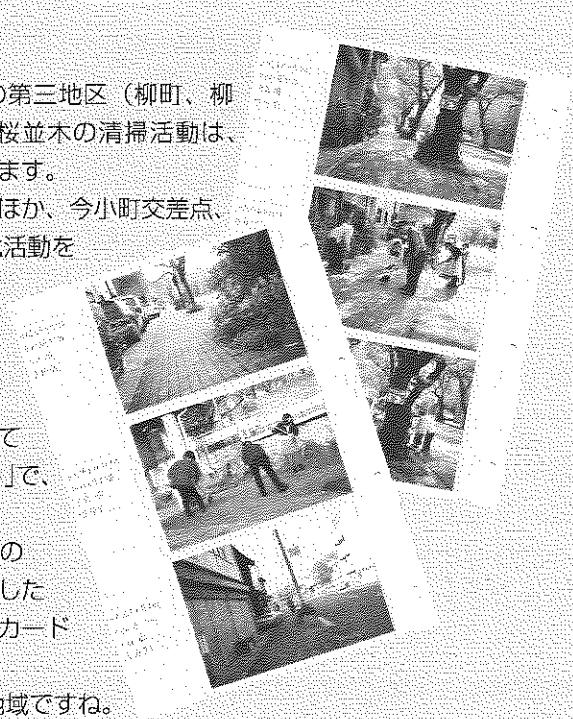
きょうまちボイステZEROの会から。京町自治会連合会の第三地区（柳町、柳
生町、堀江町西組、堀江町東組自治会など）が担当する四屋町桜並木の清掃活動は、
活動日、人員、活動状況などを記録し、報告書を作成しています。

また、きょうまちボイステZEROの会は、四屋町桜並木のほか、今小町交差点、
美江寺交差点京町小学校周辺、岐阜盲学校周辺の5ヶ所で美化活動
を行っています。

平成16年度の活動は、5ヶ所合計で、57回参加者、延べ
1,192人となりました。「ボイステをなくしましょう」の
スター300枚をはじめ、FMわっちの「聞いてミント」、
岐阜放送ラジオのインタビューに生出演など啓発活動も行って
きました。また、「長良川大学~いきいきリーダー講座(中級)」で、
活動内容の紹介等を行いました。

1年を振り返った話し合いの結果、「まちを美しくしよう」の
意思が高まった、町内・ご近所のコミュニケーションが向上した
などの評価がありました。また、継続するために、ポイントカード
(地域通貨) や楽しい企画の導入について検討しました。

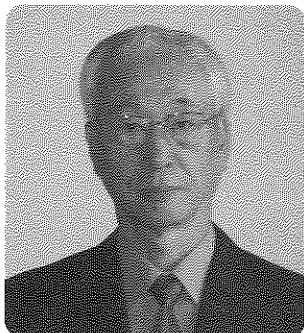
さすがは、NHK「難問解決!ご近所の底力」にも登場した地域ですね。



“ぎふまち育て隊”サポーターズ

全国に広がるアダプト・プログラムの輪

(社)食品容器環境美化協会



▲審議役 谷津直生さん

(社)食品容器環境美化協会は、環境美化推進事業の一環として、8年前から、アダプト・プログラムの普及推進に努めておりますが、“ぎふまち育て隊”から貴重な成果情報が得られるものと、期待しております。また、情報センターとして、皆様のお役に立つべく努力して行く所存です。

(<http://www.kankyobika.or.jp/>)

アダプト・プログラムは、アメリカで生まれ、全米に普及している“公共スペースの清掃美化プログラム”です。日本では、7年前の1998年に四国ではじまり、いまでは北海道から九州まで、全国で200を超える自治体がこれを導入しています。目を見張るハイペースで推移していますが、今後さらに

加速される勢いです。

“アダプト・プログラムの急速普及”の要因を整理してみました。大きく二つに分けられます。その一つは、アダプト・プログラム自体がもっている特長にあります。当協会の調査によると、「導入した場所が、以前よりきれいになった」「通行人・利用者に対し、“ポイ捨てやめましょう”の呼びかけ効果がある」「参加してまちづくり意識が高まった」などのポイントが、多くの参加者に支持されています。

二つめは、地域の動向です。いま各地で、地域の環境改善に向けた取組が強化されつつあります。その中心が“市民と行政の協働によるまち美化活動”。この身近な環境保全活動が、“地域への愛着と誇り”を育み、まちづくりの輪全体を広げています。

さて、岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”は皆さんがご存知の通り、「一般型」、「創造型」、「文化財型」の3本柱によって構成されています。いま各地のアダプト・プログラムは、「活動メニューの多様化」や「地域特性に応じた活動」など、内容が拡充されつつありますが、“ぎふまち育て隊”は、この方向に向けた先進的な取組みであると考えます。

ぼくのわたしのわっちらの岐阜発信
FMわっち78.5MHz
とっておき岐阜情報聴いてミント
8:05~8:15
(再放送17:05~17:15)

岐阜市の情報をお伝えするFMわっちの“聞いてミント”！番組から“ぎふまち育て隊”へ応援メッセージが届きました。

「パーソナリティの照屋舞子と番組ディレクターの大岡久和です。“聞いてミント”では、“ぎふまち育て隊”のみなさんをはじめ、ぎふのまちづくりをしている多くの方々の、お話を伺っています。みなさんとの楽しいやりとりで、今まで気がつかなかった活動にも興味もてるようになり、私たちも勉強させていただいているという感じです。ラジオを聞いていただくばかりでなく、FMわっちの番組に、参加してもらうことも大切なことと考えています。みなさんと一緒に番組を作りたいと思っていますので、ぜひ、スタジオに遊びに来てください！機会があれば、私たちもイベントなどの取材に出かけますので、その際は、よろしくお願ひします。



▲大岡久和さんと照屋舞子さん

ニューエントリー

新しく7つの団体が、「ぎふまち育て隊」に加わりました。

城田寺の環境を守る会



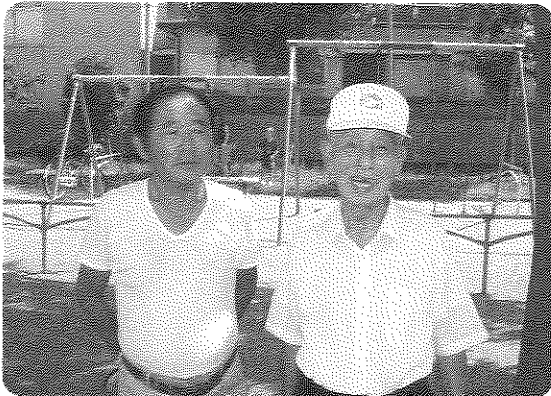
▲ふれあい花壇もある正城橋で

が美しいまちであり続けられるよう願っています。アダプト・プログラムへの参加で、「ポイ捨てをさせない!」抑止力がより発揮することを期待しています。

8月7日、正城橋と互調橋の間の鳥羽川堤を清掃しました。ゴミ袋10袋とモーターなどの不法投棄物が数多くありました。「城田寺の環境を守る会」では、鳥羽川への不法投棄防止の啓発を進めていきたいと考えています。

また、「城田寺の環境を守る会」では、正城橋において、岐阜市みどり自然室の「ふれあい花壇」の活動にも取り組んでいます。正城橋では、給水面で苦勞をしながらの花壇作りです。今後、互調橋周辺でもこの取り組みを広げようとしています。私たちは、城田寺

正木ふれあいクラブ会



▲お話しを伺った矢野久美さんと天野敬也さん

「正木公園は、平成元年頃できた公園。こんないい公園ができたのだから、地元のみんが管理していくのが当然」と、正木2丁目自治会を中心に老人クラブなどの有志で、「正木ふれあいクラブ会」を設立し、ふれあい花壇の取り組みに参加。鷺山本通など正木公園周辺の清掃を加え、「ぎふまち育て隊」に加わることになりました。

山県岩シルバー草花愛好会



▲表彰状を手に会を代表する片桐幸一さん

平成7年から、12人でふれあい花壇に参加、プラグ苗から育てるよう頼まれ、380株ほど育てています。ファミリーパークの桜の葉(落葉)を堆肥化し、この花壇で使用するなど、エコへの取り組みも。平成9年に花飾り写真コンテスト・ふれあい花壇の部で銀賞。平成15年には、花いっぱい運動で、市民参画賞を受賞しています。

花への水遣りには、ため池の水をポンプで汲み上げ1時間ほどかけてホースで撒くなどの苦勞もあります。「体が動くうちは、ボランティアを続けていきます」とは、お話しを伺った片桐さんの言葉です。

ニューエントリー

竜田町ロードプレイヤ



▲竜田町周辺の美化と安全安心のまちづくりに努める臼井良男さん

平成11年頃、竜田町周辺の歩道がきれいに整備されたことをきっかけに、「道路が良くなったし、何かやっといこう」と、ふれあい花壇の活動に取り組みました。春は、パンジー、チューリップ、秋は、ベゴニア。みどり自然室から支給される苗に、自治会や老人クラブが買い足し、美観的にも工夫したものを道路に育て、通行人を楽しませています。

花への肥料で、イチョウの木に銀杏がなるようになり、みんなで採ったりしています。そうしたことも含め、高齢者の生きがいともなっています。困っているのは、ペットの糞害。いつもきれいであれば、被害も少ない。飼い主のみなさん、ご協力ください！“ぎふまち育て隊”の活動は、地域のコミュニケーションを図り、道路など公共空間への愛着を深めるのに非常に役立つと思います。

芥見蓑笠づくり同好会



▲“ぎふまち育て隊”に参加しました。
よろしく申し上げます

昭和60年頃、旧芥見支所の跡地利用として、芥見地区に伝わる農家の古道具を展示する郷土資料館が整備されました。そして、資料館の研究員（奉仕員）として、地元の有志が集まりました。研究員は、郷土資料館の管理のほか、岐阜市の歴史博物館や鏡島、梅林、白山などの老人クラブや公民館、子ども会に招かれ、わらぞうりやしめ縄の作り方の講習会を行っています。この資料館を訪れると、芥見地区は、農業のほか、鬼瓦の生産があったこと、そのため、大船（おおふね）と言う地名が残るように、長良川を下り、名古屋港にでて、堀川を上る運送業が発達していたことなどもわかります。

さて、「芥見蓑笠づくり同好会」（会員数28名）は、資料館の研究員の生きがいづくりの一環として、ふれあい花壇で花苗の育成に取り組んできました。さらに、郷土資料館・芥見公民館周辺の道路も清掃し、アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”に参加することになりました。「芥見蓑笠づくり同好会」の名前は、地域のシンボル、蓑笠山のふもとで活動を行っていることに由来します。

ニューエントリー

梅林の環境を守る会



▲まちづくりのイベントも多数開催していきます

自分たちのまちを自分たちでつくる。出来るだけ努力して良いまちにしていこうと、そうしたまちづくりへの意欲から、旭見ヶ池（ひみがいけ）町の住民が中心となって“ぎふまち育て隊”へ参加しました。地域の清掃活動には、子どもたちの参加も呼びかけていきます。「ぼく（わたし）も手伝うよ。」という雰囲気を作っていきます。

そこで、毎月第三日曜日を活動日に決め、最初の清掃活動となった9月18日には、岐阜市斎苑周辺に約30人が参加し、ごみ袋6袋分をいっぱいにしました。

帝国コンサルタンツ(株)

帝国コンサルタンツ(株)は、ISO14000を取得。環境配慮設計、省エネルギー、ゴミ分別などの取り組みをしています。そこで、周辺の環境にも目を向け、地域にも有益な活動として、「岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”」を知り、清掃活動を開始することになりました。当面は2ヶ月に1度、社屋周辺の道路を清掃していきます。

Let's コラボレーション! ~“ぎふまち育て隊”参加者募集~

岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”は、参加者を募集しています。

アダプト・プログラムは、市民協働推進室が代表的な窓口となりながら、道路、河川などの各担当室と覚書を結んで活動を行っています。今回は、文化財を担当する社会教育室からのご案内です。

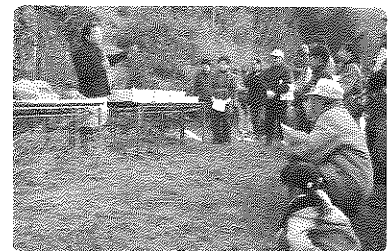
岐阜市にある文化財を担当する、「社会教育室の横田です」。既にご存知の方も多いかと思いますが、岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”の大きな特徴のひとつは「文化財型」のプログラムがあることです。

文化財とは、我が国の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産のことです。それは我が国の歴史、伝統、文化などを理解するために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上発展の基礎をなすものです。岐阜市内には、文化財保護法や文化財保護条例で指定・登録された文化財が244件ありますが、それ以外にも各地域には数多くの歴史的遺産があります。その多くはまちの遺伝子ともいえる地域固有の存在で、それを活用していくことは、特色あるまちづくりを推進し、郷土の歴史を伝承し、新たな文化を創造していく足がかりとなります。

文化財型アダプト・プログラムは、市民による美化活動を行うとともに、地域の宝を再発見しふるさとづくりや、まちづくりの芽としていこうというものです。

現在、文化財型のタイプで活動しているのが常磐地区の「上城古墳保存会」で、上城田寺第4古墳群（市史跡）において美化・普及活動を行っています。今春の活動時には、除草・清掃活動の後、須恵器や勾玉などの出土品を展示し、学芸員の解説を加えるなどのミニイベントを開催しました。このイベントには、常磐地区内外から60数名の参加があり、大変好評を得ました。

岐阜市内の指定文化財や歴史的資産を活用し、アダプト・プログラムを実施してみたい方は、ぜひ、私までご相談ください。



▲アダプトでの清掃活動後、古墳の解説をする横田学芸員

Adopt Program Members

岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”に参加の団体(順不同)

岩戸川美化推進委員会



7月31日(日)に行った河川清掃の様子

岐阜市の白山地区を流れる岩戸川で実施しているアダプト。本年度3回目の清掃活動は、11月27日(日)に行います。「昔は泳げるほどきれいでウナギも捕れた」。参加しているのは、五十、六十代の男性を中心に四十数人。少人数で続けてきた清掃活動は、地域全体での取り組みへと姿を変えてきました。タイヤ、自転車、バイクなどようやく無くなってきました。「大変な作業だけど、続けなければ」とは、会員の感想です。(担当 河川室)

平成16年度中は、雨天により活動を中止した日も2日ありましたが、42回の活動を行い、延べ648人の参加がありました。梅の名所として有名な「梅林公園」で、「創造型」のアダプトに取り組んでいます。清掃活動のほか、公園内に竹柵を巡らす作業や、和風の庭園づくりを楽しみながら、高齢者のいきがづくりや、まちづくりにも取り組んでいます。(担当 公園整備室)

梅林公園を守る会



会の発足から、まる2年が過ぎ、10月23日(日)に行った芋煮会。公園で採れた梅で作ったジュースで乾杯!!

新荒田川をきれいにする会



今年度も、年に2回(4月と10月)に活動を行いました。参加者は、各回とも180数名。

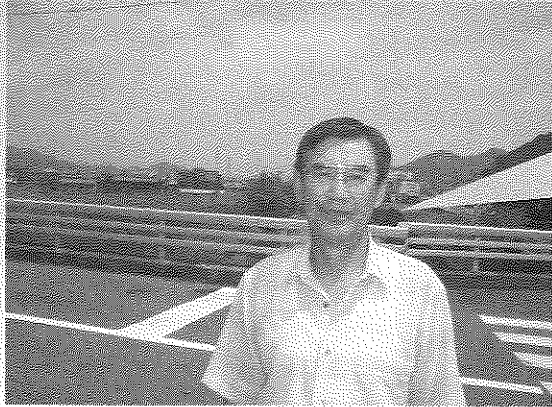
長森西自治会連合会や、長森小学校などに呼びかけて参加者を募っています。今年、春の活動は、会発足から7回目の河川清掃でした。この活動の結果を、左の写真のとおり簡単にまとめました。

(担当 河川室)

Adopt Program Members

岐阜版アダプト・プログラム“ぎふまち育て隊”に参加の団体(順不同)

鳥羽川美化クラブ



鳥羽川美化クラブ 酒井さん

11月20日(日)に岩野田北、岩野田
校区大クリーン作戦を実施予定です。

これは、岩野田北自治会連合会と鳥羽川美化クラブの
連携によるもので、自治会をはじめ、各種団体、
小中学校、企業の参加により、桜橋から福天橋までの
約5キロの区間で清掃活動を行う予定です。昨年の
鳥羽川美化クラブの活動では、せっかく
岸に上げた粗大ゴミが、川の増水で
再び流れた反省も……。

(担当 河川室)

活動の情報を お寄せください!

アダプト・プログラムの活動は、岐阜市
のホームページでも、紹介しています。

活動された時は、写真や、参加人数、ゴミ
の量などの情報をお寄せください。

アダプト・プログラムの活動が地域に認
知された、親睦の輪がひろがったなど、ア
ダプト・プログラム実施の成果を、ぜひお
聞かせください。

上城古墳保存会

9月18日(日)に、古墳での草刈、枝払いな
どの美化活動を40名の参加により行いました。
南に岐阜大学を間近に臨む里山の中腹に古墳
群があります。地元に住んでいても、古墳群
の場所を知らなかった人もみえました。昨年
度開催し「地域の歴史に触れる良い機会とな
った」と好評のミニイベント(須恵器、勾玉
など出土品の展示や学芸員の解説)を、次回
の3月の活動では、多くの子どもたちに呼び
かけて行う予定をしています。

(担当 社会教育室)

きょうまちボイスZEROの会
藍川きれいなまちを守る会
大同コンサルタンツ(株)
東邦ガス(株)岐阜支店
帝国コンサルタンツ(株)
梅林の環境を守る会 (担当室 土木管理室)
華陽小学校PTA (担当 教育政策室)
日置江自治会連合会 (担当室 循環型社会推進室)
水と親しむ西郷まちづくり推進協議会 (農地整備室)

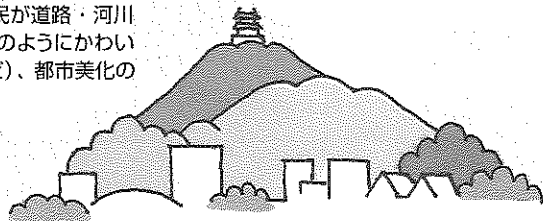
両満川をきれいにする会
準用河川戸石川「水辺の楽校推進協議会」
細畑連合自治会
三田洞東自治連合会
西改田自治会
金華山を美しくする会
城田寺の環境を守る会 (担当 河川室)
両満花と緑の会
正木ふれあいクラブ会
山県岩シルバー草花愛好会
竜田町ロードプレイヤ
芥見蓑笠づくり同好会 (みどり自然室)

岐阜版 アダプト・プログラム

“ぎふまち育て隊” やっています。

あなたも
参加してみませんか

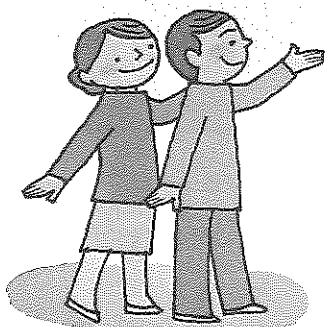
●アダプト・プログラムとは、市民が道路・河川などの公共の場所を、わが子のようにかわいがり面倒をみる(清掃活動など)、都市美化のしくみです。



アダプト(=adopt)には、英語で「養子縁組みをする」などの意味があります。

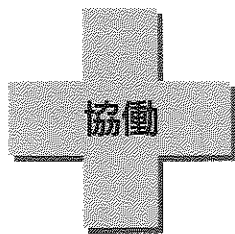
都市美化の対象

公共の場所(駅前、繁華街、道路、公園、河川など)

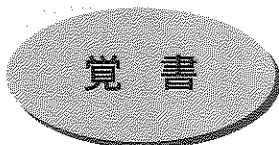


市民・地域企業など

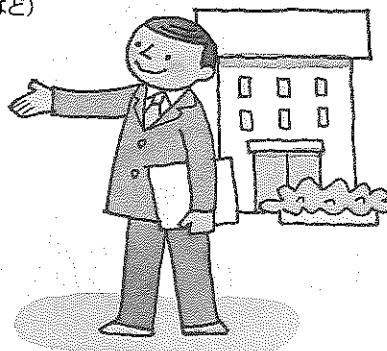
市民の役割
・清掃・美化活動



合意

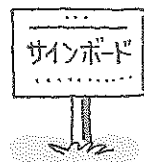


岐阜市と活動団体が締結



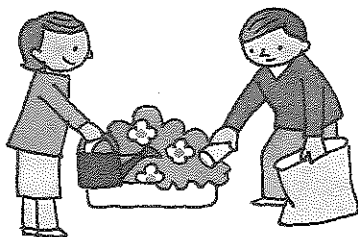
岐阜市

岐阜市の役割
・傷害保険への加入
・アダプト・サインボードの掲出
活動団体の名前などを明記したアダプト・サインボードを掲出することで、里親には自覚とやりがいを、市民には都市美化の啓発となります。



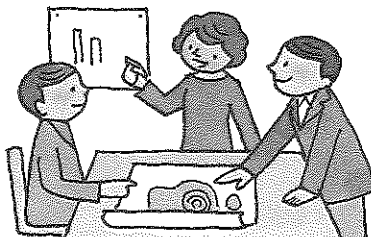
アダプト・プログラムの3パターン

一般型アダプト・プログラム



〔例〕・定期的に道路や河川などの清掃活動をしている場合。
・毎日、街路樹と花壇に水やりし、周辺の道路を清掃している場合。

創造型アダプト・プログラム



〔例〕・市と協働で、公園などを企画し、完成後、美化や管理などの活動を行う場合。

文化財型アダプト・プログラム



〔例〕・民間敷地内の町のシンボルを、地域住民で清掃している場合。所有者等と活動団体の間で、まず覚書を結びます。